



1 年間ありがとうございました

小田原児童相談所 所長 土橋俊彦

昨年 4 月に浜田所長の後任として着任してまもなく 1 年が経過します。その前の職場は県立中里学園の最後の園長をしており、里親の皆様と同じ社会的養護の受皿の役割を担ってきました。

児童相談所は 6 年間のブランクがあることに加えて、この期間にいくつもの大きな法律改正があり、初めは戸惑いの連続でした。中でも里親の皆様を取り巻く状況については、里親開拓、委託促進、フォスタリングケア等が強く求められる状況に変化しました。また、昨年 8 月には、国は「新しい社会的養育ビジョン」を打ち出し、施設養育支援から家庭養育支援に大きく舵を切っております。

振り返りますと、児童福祉司として昭和 60 年に中央児童相談所にて初めて里親家庭への障害児委託を行い、障害児加算が創設されたことや平成 10 年から 5 年間厚木児童相談所で里親担当職員として里親の皆様と共に歩み、多くの子ども達の養育をお願いしてきました。里親家庭では、委託した子ども達がいつも家庭の中心に置かれ、里親家庭が支援者として成長していく姿を心強く感じておりました。他の児童相談所

に勤務していた時も、私の中では里親家庭の存在は支援の中心であり、児童福祉司の原点を里親の皆様に教えられたと思っています。

さて、小田原児童相談所では、所長として里親家庭への委託促進と共に里親開拓が大きな課題でしたが、委託促進については里親の皆様のご理解をいただき幼児を中心に里親委託が増えてきました。一方、里親開拓については里親の皆様、里親対応専門員、里親担当者、管内施設の里親支援専門相談員の方々のご協力をいただきながらも、なかなか実績が上がらないのが実情です。特に県西地域は管内人口の少なさなどもあり、決め手が見つかりません。どこかに起死回生の一手がないのでしょうか。他県の似た地域を参考にしていきたいとも考えてみたいとも思いました。

最後に私事でたいへん申し訳ないのですが、今年 3 月末で定年退職となります。たった 1 年間の所長でしたが、この宿題については皆様に託していきたいと思えます。後ろ髪を引かれながら児童相談所を去りますが、里親の皆様や関係者の皆様には感謝と今後のご活躍を祈念申し上げます。一年間ありがとうございました。



養育体験

「セレブな床屋さん」 H.H

昨年から一緒に暮らし始めた支援級に通う中学生の R くん。我が家に来て間もなく、夫が行きつけの床屋さんに行くことになりました。気の進まない彼でしたが、「セレブな床屋さんだよ」の私のひとことで、すっかりその気に。

その床屋さんは私たちが里親しているのをご存知でしたので、こちらを話して、くすぐったいと大騒ぎする R くんに関わってくださいました。月 1 回、一人で行けるようになると、散髪代のおつりの計算をさりげなく彼にさせてくれ、紙に書いた計算に「大変よくできました」の

二重丸もいただきました。

ある日、床屋さんの予約が 17 時からといつになく遅い時間帯に、R くんも「暗くなっちゃう」と少し心配げでしたが、「自転車のライトが点くから大丈夫。」と送り出しました。

ところが、18 時半近くになっても帰宅せず私が不安になり始めたとき、電話が。R くんからでした。「今終わったのでこれから帰ります」と、彼にとって初めての電話体験でした。床屋のおばさんが電話をかけさせてくれたそうです。すぐに「今、無事帰宅しました。いつもお心遣いありがとうございます。理解ある支援者でいてくださって感謝しております。」お礼の電話を入れました。

今年もまたお世話になります

小田原児童相談所 里親対応専門員 小野純子

平成 21 年の 4 月から里親担当としてお世話になっています。この 9 年の間に里親制度も大きく様変わりしてきました。特に子どもの委託はまず里親さんにとりという方針から、29 年度は新たな委託や緊急一時保護、そして現在 (H30 年 2 月末) もマッチングが数組進行中です。このように里親委託が進んでくると当然ながら、里子さんとの関係に悩まれることも多くなるかと思えます。例えば委託後しばらくして見られる子どもの様々な問題行動などがあります。私たちはよく「試し行動」と呼んでいます。先日ある先生はこの症状を「毒出し」と表現されていました。確かに里親さんのお宅に行くまでには、どのお子さんも過酷な体験をしてきています。その中で怒りや悲しみなど言葉では言い尽くせない様々な感情が澱(おり)のように溜まっていったものがまさに「毒」なのかもしれません。

そしてこの「毒」を出すことで健やかな成長を果たせるのだと思います。しかしこの「毒出し」を受け止める里親さんは大変です。「こんなはずでは!」と思われた方も少なくないと思います。それでも全力で受け止めてくださる里親の皆さんには感謝しかありません。簡単に解決できる方法はなく、気長に根気強く付き合ってください。お説教や強制では却って逆効果の場合もありますし、時にはじっと我慢して待つことや子どもの感情に振り回されない冷静な対応が必要かもしれません。そしてご自分だけのため込まず、里親さん同士や児童相談所あるいは里親支援専門相談員さんなどに話をしてください。話すことで違う見方ができたり、乗り越えるヒントが見つかるかもしれません。

*最後に子どもたちだけでなく私たち大人も上手にデトックスしましょう!



想いでの冬季オリンピック



- ★ 思い出すのは「1972 年・札幌オリンピック」です。私は高校生でした。テレビからの音声に、真駒内、手稲、札幌、大倉山等の行った事の無い地名が耳新しかったです。競技はジャンプの笠谷選手初め金銀銅独占の日本選手の事を「日の丸飛行隊」と呼んで賞賛した事も覚えています。テーマ曲の「虹と雪のバラード」は今でも新鮮で、どこから流れて来ても当時が蘇ります。
- ★ 今年はオリンピックイヤーで、とても楽しみにしていたのですが、いざ始まると TV を見る暇がなく LIVE 中継というよりはニュースで結果を確認する程度となりました。しかし我が家では子どもを連れ初めてスキーやスケートに挑戦しました。これが我が家のオリンピックでした!
- ★ 冬季オリンピックは華やかさもありませんでしたが落ち着いて TV を見る時間がなくタイムリーに盛り上がる事が出来ませんでした。が、今年は家族 3 人でウィンタースポーツに挑戦! 子どもはスキー、スケートデビューしました! なかなか筋が良く(笑)未来の選手になっているかも知れません!
- ★ M はなんと言っても東京オリンピック! 東洋の魔女にマラソンのアベベは『凄い!』と思って観たので今でも記憶に強く残っています。S はう〜ん、そう言われればジャネット・リン。札幌オリンピックの時に出ていた? あとコマネチかな〜。
- ★ 1972 年の札幌オリンピック。アメリカのフィギュアスケートの銅メダリスト「ジャネット・リン」。金髪のスラッシュショートヘアにあこがれて、私も美容院で「ジャネット・リンカットにしてください」と恥ずかしげもなくお願いしたものです。
- ★ 長野冬季オリンピックのお陰で、妻の実家のある糸魚川へ向かう国道 147・148 号線が整備されることが、私にとってのオリンピックの効果。以前は、大型車のすれ違いができない場所が多く、危険で時間がかかりました。今は快適です。



「意外と知らない施設で暮らす子どもたちのこと」

一泊研修

H29/9/16~17

平成 29 年 9 月 16 日、児童養護施設 城山学園のぐるーぷほーむ指路をお借りして研修会を開催しました。その後湯河原のホテルで宿泊も兼ねて親睦会を行いました。

今回の研修は、児童養護施設で暮らす子どもたちのことでふと思う「こんな時、どうしているの？ どうするの？」などの疑問を小田原児童相談所管内の 4 つの児童養護施設（ゆりかご園、城山学園、強羅暁の星園、箱根恵明学園）の職員の方々に教えてもらいました。一部は 4 施設の職員の方々にそれぞれ施設の概要を紹介していただき、二部ではグループに分かれて討議しました。意外と知っているようで知らない話がたくさんあって有意義な研修会となりました。

〈グループ討議（まとめ）〉

- ・一時保護中は学校への通学ができず子どもには不利益。児童相談所を始め全支援者が早期の一時保護解除を望むが事情が多く方針調整が困難で長期化することもある。
- ・里親が相談発信する機会が少ない。今回のように支援者が一同に集まり意見交換する場はとても貴重。
- ・施設への入所措置は基本的に断れないが、定員受け入れ枠がない場合やすでに入所中の児童との相性やバランスによって入所に至らない場合もある。
- ・お小遣いの金額、またその渡し方。自立する子どもたちの貯金。園を卒業した後の金銭面のこと。
- ・SNS の普及により、その対応について。
- ・「施設の子どものことを知りたい」の声にお答えし、このような機会となり同じ子育ての環境にあって交流はあっても情報交換の機会のないまま過ごしていたことに気がついた。
- ・施設では自立支援を目指し、小さな子どもでも着替えなど「自分でできることは自分でしましょう」をしつけとしているが、家に帰るとやらなくなる傾向もある。親、職員との信頼関係の中で身につくものだと思う。
- ・高校生のアルバイト、外出の門限について。
- ・高校生になると施設の生活を口外したくないという子どもがいるが、里子の中にもいるということで共有する内容だった。



〈参加者の感想〉

- ・施設職員でもほかの施設の情報は知らないと感じよい機会になった。
- ・里親も施設職員も子どもたちのことに思い悩む部分が共有できた。
- ・施設それぞれにカラーや特色があって入った施設によっていろいろ暮らし方も変わるのだと思った。
- ・施設職員が当たり前だと思っていたことが、里親から見ると驚かれることが多く、施設の中は意外と見えないものだと改めて感じた。
- ・批判や対立ではなく、社会的養護の受け皿として施設や里親は両輪で子どもの幸せを保証していきたいと思った。
- ・施設と里親家庭の違いが少し理解できた。
- ・やはり子どもたちの自立のためには家庭が一番と思っている。
- ・施設の内情を知り、納得することがたくさんあった。これからも交流が必要だと感じた。
- ・普段聞くことのできない施設の中の様子を聞くことができて参考になった。
- ・施設の状況が見聞きできて参考になった。
- ・里親、施設の生の話で大変盛り上がった。隣のグループと声が混じり合って聞き取りづらくらい白熱して語りあった。





「お父さんは直し屋さんだね」 田辺春之

長女が小さい時に、何か家の不具合をドライバー等で補修した場面での言葉でした。確かに私は勤め始めてから今まで殆どの仕事内容が「直し屋さん」です。自動車整備士を目指す学校で国家資格を取り、その道に進み日々を過ごしたカーディーラー時代。その後、転職した業種が製造業でしたが、募集要項に機械保全業務と謳ってあった通りトラブル処置と対策考案改造実施の長い目での安定稼働を目指す仕事でした。

この頃に近所を乗れる中古バイクを購入し酒匂川の河原で乗っていましたが、元来の直し屋さんの気性が乗り心地が今一だと直ぐに手を加える時間の方が多くなり、乗れる時間が減りました。部品を外して手直ししたまま翌週に引きずる為です。やっと組んで乗り出すと、また別の所が気になる。かなりこれを繰り返して来ました。

最近知り合いから頼まれた草刈機、チェーンソー等を整備・復活させて、お礼に野菜を貰っています。

過日サークルで知り合った方と話している時に、自宅でバーベキュー時に使っていた小型発電機が始動しなくなったが見て貰えないかとの事、早速引き取って蓋を開け中を確認すると始動用のレバーを操作すると内部のワイヤーが外れてしまいました。ご自身が整備と称して脱着した部品の組む順番が違っていた為でした。正規位置に戻しながら組み、スタートハンドルを引くと快調に運転が始まりました。届けて運転確認をした折りの知人の声は「何回やってもダメだったのだけど・・・」、直って良かったです。後日焼き立てピザを届けてくれました。

最近自分でも鼻高々になる瞬間があります。不調・欠品等の農機具を復調させ、冷えていて粗大ゴミ化していた物が始動・暖気・活躍した時の、音・匂い・結果に満足し目じりが垂れます。

楽しい老後が暮らせそうです。その結果、孫に爺一じは直し屋さんだねと言って貰えるかな？と。

賛助会員募集中！！

様々な事情で家族と暮らせない子どもたちを実親に代わって家庭に迎え入れ生活しているのが私たち里親です。そして子どもたちの幸せを求めてともに助け合い学びあうために、また様々な活動ができるよう「里親会」を作りました。

養育研修やレクリエーション、児童養護施設児童との交流、里親制度の啓発活動、広報誌の発行などを行っています。

里親制度を多くの皆さまに知っていただき、さらに充実した活動を続けるために皆さまのお力添えをお願いいたします。

会費：一口（年額）2,000円

ご賛同くださる方は会費を西湘なでしこ会の銀行口座にお振り込みください。

<振込先>

横浜銀行 小田原支店 普通 口座番号 1059438

西湘なでしこ会 会長 本多一重

会員になっていただきますと、

○西湘なでしこ会行事のご案内をいたします。

○里親会の広報誌をお送りいたします。

平成30年度の主な行事予定

- 4月 定期総会・里親会懇談会
箱根恵明学園「小涌谷ゲーム大会」
- 5月 小田原市子育て支援フェスティバル
- 7月 第64回関東甲信越静里親協議会（静岡市）
ポリショイサーカス
- 8月 子ども料理教室
- 9月 一泊研修
しろやまふれあいバザール
- 10月 施設と里親交流事業「みんなであそぼう」
第31回神奈川県里親大会（綾瀬市）
- 11月 第63回全国里親大会（金沢市）
酒匂ゆりかご祭り
- 12月 委託里親交流会

年末たすけあい義援金の配分を受けています。

編集後記 広報誌の編集をお手伝いして6年が過ぎました。パソコンは2台目。いつ壊れるか心配しながらの作業から解放されて、今回は快適に作業ができました。（西）